

平成29年3月

各 位

## News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

平成29年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年11月から平成29年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補者を公募してまいりました。このたび応募140件の選考を終えて43件の助成対象者を決定し、助成金目録の贈呈を行うこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,137件になります。

### 【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-9-1

明治安田生命新宿ビル2階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

## 記

### 1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、平成28年11月から平成29年1月31日まで行い、140件の申込を受付けた。

### 2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

### 3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月23日）を経た後、理事会の承認を得て決定。

【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	天野武	儀礼文化学会名誉会員
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	田村善次郎	武蔵野美術大学名誉教授
〃	西角井正大	国立劇場おきなわ運営財団理事
〃	星野紘	独立行政法人日本芸術文化振興会 プログラムディレクター
〃	渡辺行信	当財団評議員

### 4. 助成決定件数・助成金額

(1) 平成29年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	134件	42件	1,811万円
民俗技術	6件	1件	39万円
合計	140件	43件	1,850万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

## (2) [ご参考] 助成件数・金額の推移 (金額単位:万円)

年度 (平成)	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
合計	1,029	55,306	108	3,941	1,137	59,247

## 5. 助成金目録の贈呈

助成対象者の所在する最寄の明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

# 平成29年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

42件 1,811万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
北海道	アリアケシマイユウシノカイ 有明獅子舞有志の会	12	M31年富山県上田村からの入植者が母村から獅子一式・天狗面・衣装を買い求め伝承。有明神社への奉納が3年途絶えていたが、H27有志により演舞の練習が再開され復活。H28年は笛奏者も加わり神社祭で披露。
	有明獅子舞		道具・衣装購入費の一部として
青森県	クニヨシシオトノリホゾノカイ 国吉獅子踊保存会	40	県内に複数伝わる弘前藩公認の松森町系の獅子踊。S23年大火で獅子頭を焼失したが数年間手作りの代用品で凌ぎ継続。演舞は前庭2、後庭3の5演目で、古風な様式をそのまま継承。国吉稻荷神社秋祭に奉納。
	国吉獅子踊		衣装・道具購入費の一部として
岩手県	シノギカゲラホゾノカイ 篠木神楽保存会	50	盛岡藩の神仏分離の考えで社家神楽に「社風神楽(みやぶりがぐら)」の名称を付与。伝承演目は24で実際の上演は5演目。「山の神舞」に十二手と呼ばれる独特の歌と詞章を伝承、「獅子舞」も権現舞と異なる趣がある。
	篠木神楽		衣装購入費の一部として
岩手県	ヒライスミユウホソノネブツケンハイ 平泉流細野念仏剣舞	50	義経の鎮魂が起源とされる念仏剣舞を280年間継承。鬼面に毛采を冠り大口袴・太刀・手甲・襷掛けで激しくはねる男舞。徴兵で踊手が消滅、S38年経験者から学び女剣舞として復活。地区イベント、芸能大会に出演。
	平泉流細野念仏剣舞		衣装・道具購入費の一部として
秋田県	ワキモヤマドントボゾノカイ 脇本山車どんど保存会	15	200年前からと伝わる七夕行事で武者人形を飾った曳き山車を笛や太鼓の囃子に合わせ子供達が曳いて練り歩く。祝儀を貰うとお礼に口上を述べ花火を振り回すのが特徴。終わると頭部を外し人形を海に流した。
	脇本の山どんど		太鼓修理費として
秋田県	カマダダイカガラガラコウ 亀田大神楽神楽講	35	安永2年(1773)熊野神社再建時に伊勢神社参拝で学び伝えた。獅子振りには獅子頭1人と胴体の後ろで幕取りをする人の3名。囃子方は笛・拍子木・太鼓で構成。威勢の良い舞と軽快・節回しの良いお囃子が特徴。
	亀田大神楽		獅子頭製作費として
山形県	イワネワダイカガラホゾノカイ 岩根沢太々神楽保存会	50	明治初年頃、福島県伊達地方から太神楽36坐・小神楽12坐が伝わり、戦中戦後の中断の後、S23年に復活。神話に基づく舞で面・芸態・楽曲に特色があり、楽曲は素朴で単純な中、打楽器でリズムに変化を持たせる。
	岩根沢太々神楽		備品・衣装購入費の一部として
福島県	アラジシゾノカイ 荒獅子保存会	35	三春城下町の神社で神輿渡御行列の先頭を飾る舞。18世紀以前から継承。町内神社に伝わる長獅子で最も古く、最も荒々しいことから「荒獅子」と呼ばれる。八雲神社例大祭は毎年、三春大神宮例大祭は隔年奉納。
	八雲神社の長獅子舞(荒獅子)		獅子頭修理・道具購入費として
栃木県	イノウシモマツリホゾノカイ 伊王野下町祭保存会	50	江戸末期から11月3日を挟む3日間行う伊王野温泉神社祭礼に屋台を曳きお囃子を演奏してきた。祭り1カ月前から若衆が準備を行い経費は全額住民の御花で賄っている。T9年まで高さ8mの彫刻屋台を使用。
	伊王野温泉神社例祭付祭		道具購入費の一部として
埼玉県	ヒガシトウインノカガラホゾノカイ 東不動院野神楽保存会	50	江戸中期に茨城県より伝わったとされる不動院野の神楽を継承。一時衰退、S45年保存会結成し復活。5演目を有し、地方の方言を用いた土着性が強いのが特徴。地区の祭礼や行事で披露。
	不動院野の神楽		長胴太鼓購入・修理費の一部として
埼玉県	コガキシマイホゾノカイ 古久喜獅子舞保存会	53	500年前に大水で漂着した獅子頭を用い、舞を奉納したのが創始で、7月25日遍照院を出発、天狗・獅子3頭・道化・笛方が巡行し、太田神社で綱の舞・弓の舞を奉納。巡行では獅子の衣を掛け無病息災等を祈願。
	古久喜の獅子舞		獅子頭修理費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
千葉県	クマノジノヤカガヲホゾノカイ 熊野神社神楽保存会	39	元禄年間(1688～1704)から伝わる熊野神社で彼岸の中日に奉納する神楽。東総地域に多い十二座神楽だが一人舞の連続等古態が残る。素面で演ずる神返しの舞も独特。大火で休止、S48年保存会結成し復活。
	熊野神社の神楽		裱購入費として
東京都	シミスバヤシホゾノカイ 清水ばやし保存会	53	江戸末期に鎮守の祭礼等に奉納する為、高円寺から学んだ祭囃子を継承。戦時中中断、S27、28年頃復活、S49年保存会結成。繊細さはなく大味だが市内では最古の囃子。清水神社秋祭や老人ホーム慰問で披露。
	祭囃子		獅子頭・用具購入費の一部として
神奈川県	ノビノカムトラオトリホゾノカイ 野比中村虎踊り保存会	33	浄瑠璃「国性爺合戦」の一部で虎退治の強者・豪傑ぶりを脚色し、唐子踊を交え、祭礼に囚んだ祭囃子・下田囃子に続き虎ばやしに合わせ虎舞の芸が行われる。本物の虎を思わせるリアルさアクロバットな芸が特徴。
	野比中村虎踊り		道具修理・衣装・備品購入費として
新潟県	カサセマチソカノホゾノカイ 浦瀬町奏楽保存会	50	明治時代に新潟県の弥彦に出向き教えを請い、受継がれてきた神楽舞。年2回(春・秋)の地元神社の舞殿で奉納するほか各種行事で公演。
	神楽舞		神楽面補修費の一部として
石川県	シバガキソウネダン 柴垣壮年団	65	M20年代に高岡から学んだ獅子舞を継承。神輿渡御には面を着けた「ベシヤラ衆」も随行。祭の1週間前にベシヤラ衆の面と装束を競売する「ケンジ」は他にない貴重な習俗。文久元年(1861)記銘の面を持つ。
	獅子舞		獅子頭修理費の一部として
福井県	ツシマカガヲホゾノカイ 津島区神楽保存会	50	小浜八幡神社の例祭「放生祭」には神輿・山車・神楽・大太鼓・獅子の5種類の出し物が出演。津島区は神楽で2年1回披露。保存会が道具類の管理や後継者育成にあたり、休み番の年の8月に10日程度稽古を実施。
	放生祭(神楽)		横笛購入費の一部として
長野県	コイカガヲバヤシホゾノカイ 小市神楽囃子保存会	40	志奈野市神社秋祭に奉納する獅子舞を継承。数少ない男獅子で、太鼓も大きく笛も勇壮。250年間祭を主催してきた小市若者連からS49年、獅子舞と神楽囃子を分離し保存会結成。
	志奈野市神社太々神楽		道具修理・購入費、衣装購入費の一部として
岐阜県	セキシシマイホゾノカイ 関市獅子舞保存会	50	江戸末期に五穀豊穰・無病息災を願い創始した神楽を継承。一時中断、S43年保存会結成し復活。文楽・歌舞伎を参考に獅子を女形に見立て道行を演じ、唄・振付を工夫。春秋の氏神様の祭礼に奉納。
	神楽(悪魔祓い)		道具購入・修理費の一部として
静岡県	エノウテントウブノホゾノカイ 江浦伝統文化保存会	8	寛政年間(1789～)花婿が名主に付添われ殿様に挨拶に行くと、庭先で笹の葉に水を含ませ頭にかけてのが起源。今は区民の一員として認めてもらう正月の伝統行事。四斗樽に入れた水を豪快に浴びせるのが特徴。
	江浦の水祝儀		提灯購入費として
愛知県	テカヲチヨウホウノホゾノカイ 出川町棒ノ手保存会	12	直師夢想東軍流と称し、農兵武術として伝承。棒・太刀・真剣・槍・鎌・長刀等を使った演技を行い、出川神明神社秋祭や春日井祭りで披露。技の構えの時間が長いのが特徴。
	直師夢想東軍流棒の手		道具購入費として
三重県	オオトビカシジチカイ 大淀東区自治会	22	260年前の江戸時代が起源で厄除け・豊漁・豊作を祈願。大淀の3地区合同で行い、1日目は東区の山車、2日目は三世古・山大淀山車が巡行。東区は山車の上に囃子方が乗り、梶棒を取る梶子が8人付き巡行。
	大淀の祇園祭		幟旗用杉丸太購入費として
滋賀県	イノクチタイオトリホゾノカイ 井之口太鼓踊保存会	50	伊吹山山麓に広く分布する雨乞いの太鼓踊を継承。延宝5年(1677)地域15ヶ村が岡神社奉納の記録あり。一時中断、S49年保存会結成し復活。太鼓のバチ捌きが難しいのが特徴。現在活動中は3、4地区に減少。
	井之口太鼓踊		締太鼓購入費の一部として



地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
大阪府	ダイウシナカガイトジチカイ 大東市中垣内自治会	40	1000年の歴史を持つ須波麻神社の一連の正月行事を継承。かつては長老が若者を指導したが、現在は自治会中心にしめ縄づくり・門松づくりと1月14日の高さ10mの大とんどを実施。
	中垣内地区正月行事		正月行事用材料購入費として
和歌山県	タイヂョウミンゲイボウシカイシイネン 太地町民芸保存会 寄水 青年同志会	50	家を祓い清める神事。10月1日は獅子出の儀で、集会所で練習してきた獅子舞を正式に舞い、10月中旬の休日は町内全戸渡御で、神社で獅子舞をした後に各戸を廻り獅子舞を舞う。
	飛鳥神社例大祭		道具購入費の一部として
鳥取県	ハツシンジャシマボウシカイ 波津神社獅子舞保存会	50	因幡の麒麟獅子舞を継承。毎年4月の波津神社春祭に奉納、氏子宅に宵宮・本宮の2回門付けを行う丁寧さや頭屋制の維持など昔ながらの伝承維持が特徴。氏子数は23戸と小規模。
	波津神社の獅子舞		道具購入費の一部として
島根県	フナカガラトモキョウシツ 深野神楽こども教室	50	江戸後期に創始、大正期に途絶えS61年保存会結成し復活した深野神楽を継承。H15年こども教室を結成し指導。しまね子ども神楽フェスティバル等で披露。年10～15回地域行事や祭でも上演。
	深野神楽(出雲神楽)		道具・衣装購入費の一部として
岡山県	シガミトリボウシカイジョウセン 仕組踊保存会 城扇	50	延享年間(1744～47)に尚武の踊りとして創始、維新後は町民の盆踊りとして復活した仕組踊り。高梁市の「松山踊り」の中では「地踊り」や「ヤトサ」と異なり熟練を要するのが特徴で当会が唯一継承。
	仕組踊り		衣装・用具購入費の一部として
広島県	ウエコウチシマボウシカイ 上河内獅子舞保存会	27	文政2年(1819)の記録に残り、戦前まで「おしっさん」と呼ばれる悪魔祓いの年中行事であった。以前は当番の家だったが現在は氏神社で行なっている。最初の祓いの神祇舞のほか唐囃子舞がある。
	上河内の獅子舞		衣装・道具購入費として
山口県	トクチニキョウシヨウリボウシカイ 徳地人形浄瑠璃保存会	50	幕末から明治初期頃から伝わり、畳一畳ほどの舞台上で一人で人形数体を操り、語りと三味線など鳴り物を伴奏する人形浄瑠璃。地元愛好家が編み出した徳地独自の精巧な串人形を使用。
	徳地(こども)人形浄瑠璃		舞台修理・人形購入費の一部として
徳島県	イケタニカミトリボウシカイ 池谷神踊り保存会	50	江戸期から伝わる徳島独自の風流踊りの一つ。地区の平和・安全、五穀豊穡、祖先供養や昔農事に必要な手馬のご祈祷を目的。男衆20人で新盆の8月15日に2神社・2寺院で奉納。太鼓打ち、音だし、踊り子で構成。
	池谷神踊り		衣装・用具購入費の一部として
香川県	カモジシヤナカトコシジボウシカイ 賀茂神社長床神事保存会	50	細川家使者を歓待したのが始まりで「年寄り」と「頭人」が慣行を守り、男子のみで袴を着用、文献のとおり料理を再現、3度回って酌をする舞酌をし、その間、謡曲をもって歓待した様式を継承。
	賀茂神社長床神事		衣装購入費の一部として
福岡県	ミスケンマングウチコフリュウボウシカイ 水田天満宮稚児風流保存会	50	秋季大祭で奉納の神事で、子どもたちが赫馬を被り陣羽織を纏い、「ハーエンヤーアイ」「ヤーアイ」の掛け声とともに鉦・太鼓を鳴らし町を練り歩く。傘鉦を掲げた9名を先頭に袴を付けた家元の先導で2名の師匠に稚児が続く。
	水田天満宮稚児風流		毛頭購入費の一部として
佐賀県	カトミフフリュウボウシカイ 納富分浮立保存会	45	古い太鼓の年号から江戸時代から継承と推定。舞や踊りはなく前太鼓・鼓・大胴・大太鼓・笛で構成され格調高いリズムミカルな太鼓浮立。演目は「神前」の囃子に始まり「まくい」と「きいもん」が交互に繰返される。
	納富分一声浮立		太鼓修理・衣装購入費の一部として
長崎県	ヒカシハマチョウイチクミオナズモウボウシカイ 東浜町一組女相撲保存会	30	昭和初期に他所から導入。厳しい労働であるイロコ製造に携わる女性の息抜きや大漁祈願・安全祈願として蛭子神社前で相撲踊や相撲をしたのが始まり。甚句を歌いながら踊り、相撲・餅つき踊・餅まきをしている。
	東浜町女相撲		道具・用具購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	伝承行事・芸能・技術の名称		
熊本県	キクチシモイデ、ウエコガク 菊池市下出田区、植古閑区	65	若宮神社秋祭りに獅子等総勢20名で奉納。男・女獅子の2頭で右3歩、左3歩と交互に斜め前に進む舞は古式ゆかしい舞。舞手は地域住民が担い、笛は舞の獅子楽と道を歩く道楽で伴奏の太鼓とともに保存会が担う。
	出田の獅子舞		獅子頭購入費の一部として
大分県	ミリュウスキカゴラホゾンカイ 三輪流臼杵神楽保存会	22	慶長14年の文献に初見され、県内でも珍しい採物神楽の流れの汲む。十番の演目を持ち五穀豊穡・家内安全などを祈願し奉納。現在では珍しい「陰陽」や「五行」「順逆順」といった神楽本来の所作が行われる。
	三輪流臼杵神楽		衣装・用具購入費として
宮崎県	フモトウタ、イコホトリホゾンカイ 麓輪太鼓踊り保存会	50	約400年前に島津義弘公が戦勝祈願・凱旋祝いに踊らせたのが始まり。円陣で鉦に合和し太鼓を打ち鳴らす。第1楽章は大手門攻め、第2楽章は先陣争いから本丸攻め、第3楽章で勝どき・帰路につく3楽章で構成。
	麓輪太鼓踊り		道具・衣装購入費の一部として
鹿児島県	ナゴシドン、ツクウイノカイ ナゴシドン実行委員会	50	ナゴシドン(夏越祭)は神舞と併せ岸良地区に600年以上受け継がれてきた独特のもので半年の厄払いと後の半年の福祈願で平田神社に奉納。神舞は本来8つだが継承可能は山の神舞、薙刀舞、十二人剣舞の3つ。
	平田神社の神舞		衣装・用具等購入費の一部として
鹿児島県	ヨンシー、オトリホゾンカイ ヨンシー踊保存会	50	藩政時代、船乗りを家業とする者が多く琉球滞在中に習い故郷で踊り始めたのが起源。何度かの中断をはさみH23年保存会として再結集。切り出した木材を首里まで運ぶ木遣歌がルーツで仮面を付けるのが特色。
	ヨンシー踊り		衣装購入費の一部として
沖縄県	シンザトミンゾクゲイノウホゾンカイ 新里民俗芸能保存会	70	五穀豊穡・部落発展・子孫繁栄を祈願し守護神に奉納。獅子舞の厄払い、男衆による力強い棒振り、女性の優雅な引き踊り、男女による巻き踊り、地区住民総出のクイチャーと多様な民俗芸能と大綱引きが融合した祭り。
	新里豊年祭り		獅子頭・用具等購入費の一部として
沖縄県	イゼナ 伊是名区	50	今年の願い事を解き、次の年の願いを立てる神事と農閑期を利用し余暇を楽しむ祭事的な側面があり、棒術・入羽・エイサー・組踊りで構成。島の15の組踊りのうち5演目を継承し「大川敵討」は伊是名区のみ演目。
	八月踊り		衣装・道具購入費の一部として

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む） 1件 39万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
岐阜県	ギョウワカサプロジェクト	39	寛永16年(1639)加納藩主が松山から転封の際に伝えた技術。藩札「笠札」発行や下級武士の内職として発展、現在全国シェアは約9割。直径3cmの木製「傘ろくろ」に最大54本の骨を組込む「細蛇の目」は当地のみ。 道具・材料購入費として
	岐阜和傘プロジェクト		
	岐阜和傘製作技術		



## 【ご参考】国指定・国選択重要無形民俗文化財に定められた助成先

平成29年1月に文部科学省(文化庁)が新たに重要無形民俗文化財に指定した7件のうち下記の1件1団体が、また、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(国選択無形民俗文化財)に選択した5件のうち下記の1件2団体が、当財団がこれまでに  
行なった助成先から該当いたしました。

保存継承に関わってこられた地元関係者の皆様のお喜びは勿論ですが、当財団にとりましても、今年も引き続き助成先から選ばれた事はたいへん嬉しいニュースです。

区分	決定年月	文化財名称	保存団体	地域	助成年度
国指定	2019年1月	<small>さつまいおうじま</small> 薩摩硫黄島の メイドン	<small>いおうじまはっさくたいこ</small> 硫黄島八朔太鼓 <small>おどり</small> 踊り保存会	鹿児島県 鹿児島郡 としま 十島村	1992年
国選択	2019年1月	<small>めらやま かぐら</small> 米良山の神楽	<small>おはえ</small> 尾八重神楽 保存会	宮崎県 さいと 西都市	1999年
			<small>むらしよ</small> 村所神楽保存会 (西米良村神楽 保存会連合会)	宮崎県 こゆぐん 児湯郡 にしめら 西米良村	1993年 1994年

以上

## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成29年3月現在) ・音楽分野 458人 8億4,180万円 ・伝統文化分野 1,137件 5億9,247万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社